

幼稚園の新入園児の新生活も3週目に入る。小学校の新1年生も、かわいらしい登校風景が様になってきた。では、中学校の新入生はというと、危なっかしかった自転車通学も、少しずつ板についてきた。最初は、緊張していたことだろう。徐々に慣れてきたところだが、疲れが出てくる頃かもしれない。

中学生を見ていると、同じ中学校に2つの学校の中学生在通っているように見える。制服が違うのである。従来型の制服に混じって、紺のブレザー型の制服の生徒がいる。その制服は、見るからに新品である。サイズもからだより一回りは大きく見える。新入生の制服である。

この中学校は、制服が新しくなった。女子生徒はスカートでもいいし、スラックスでもよい。自転車のヘルメットも新しくなった。よく見たら、通学カバンも変わっていた。どうやら、いろいろなものが変わったようである。

新しく変わったのには、それぞれ理由がある。こういった動きは、これからどんどん広まっていくことだろう。今まで、長年にわたり使ってきたものを変えるには、大きなエネルギーが必要となる。大事なことは、新しくなったものを使う当事者である中学生が、なぜ変わったのか、なぜ変える必要があったのかということを理解しているかどうかである。できれば、新しくするかどうかを検討する際に、生徒の意見も採り入れられるとよい。校則などの見直しに、生徒も参加するのである。今の時代には、そういうことが求められている。

振り返ると、過去にも似たようなことがあった。昔、男子生徒の髪は丸刈り、丸坊主だった。私は運がわるかった。中学に入ったときには長髪だった。市内で3校だけだった。それが、2年生になるときに、丸刈りとなった。悲しかった。なぜ、丸坊主なのかは、よくわからなかった。納得がいかない。丸刈りから長髪になるのはいいが、長髪から丸坊主は嫌である。丸刈りにするために、友達5、6人で床屋さんに行ったことを覚えている。

その後、何年にもわたって、男子生徒の髪は丸刈りだった。ところが、何をきっかけにしたかは忘れてしまったが、長髪になった。校則の見直し運動のようなものがあった。もしかしたら、今回の動きは、それ以来のことかもしれない。

丸刈りのときには、髪を伸ばすと指導された、ところが、長髪になると、今度は丸刈りに対する指導があった。理屈が通らない。その結果、中学生のうちに理不尽というものを学ぶことになる。要するに、人と違うことをするな、目立つことをするなということだろう。

新入生を含めて、これからの中学生には、自分たちがやっていることでも、やらされていることでも、納得できるようになることを望みたい。ぜひ、自分の学校で校則の見直しが行われる際には、当事者として意見を述べ合い、主体的に関わってほしい。昔、中学校の現場にしながら、生徒たちが納得できるような指導をできなかった自分を省みながら、そう思う。